

議事録

会議の名称	令和3年度第1回戸田市総合教育会議
開催日時	令和3年12月16日(木) 14時00分 ~ 15時00分
開催場所	戸田市役所 4階 公室
出席者氏名	市長 : 菅原 文仁 教育長 : 戸ヶ崎 勤 委員 : 仙波 憲一 委員 : 土肥 美奈子 委員 : 木村 雅文 委員 : 長道 修
欠席者氏名	なし
事務局	市長公室 室長 : 住野 昌洋 主幹 : 重信 雄太 主事 : 岡 和歌子
出席職員	教育委員会事務局 部長 : 山上 睦只 参事 : 星野 正義 教育政策室 室長 : 佐藤 尚子 教育総務課 課長 : 粟津 典浩 学務課 課長 : 片岡 昭博 くらし安心課 課長 : 大河原 秀紀 都市交通課 主幹 : 諏訪村 喜信
議題	(1) 通学路の安全について (2) 不登校の対応について (3) 新たな防災教育の取り組みについて (4) その他
議事内容及び結果	各議題について担当より説明を行った後、委員と意見交換を行った。
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別添のとおり
傍聴人	0人
議事録調製	岡 和歌子

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>みなさまお集まりいただきましてありがとうございます。それでは只今から、令和3年度第1回戸田市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>はじめに菅原市長から挨拶をお願いします。</p>
市長	<p>皆さんこんにちは。令和3年度第1回の戸田市総合教育会議となりますが、皆さんご多忙にもかかわらずご参加いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>先日、文部科学省の末松大臣が、戸田東小学校、中学校へ視察にお越しいただきました。記憶している限りで言うと、文部科学大臣が本市に来たことはないということであります。しかも、大臣就任後、公立学校を視察したのは本市が第1号でした。STEAM教育、STEAM Lab というのも見ていただいて、興味を持って授業なども見ていただき大変光栄に思いましたし、やはり戸田市の教育が全国的にも注目をされているということに改めて感じた次第です。教育委員会をはじめ、各学校の校長先生方が本当に一生懸命、戸田市の教育を頑張っていて、奮闘していただいているということに心強く感じています。ありがとうございます。</p> <p>今回の教育会議ですけれども、次第にもありますが、通学路の安全、不登校の対応、更には、新たな防災教育の取り組みという3つの議題を用意させていただきました。皆さんと有意義な会議としていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、本日の議題に入らせていただきます。それでは会議の進行は菅原市長にお願いしたいと思います。</p>
市長	<p>まず初めに、議題1の通学路の安全についてでございます。全国各地で危険運転等により児童生徒が負傷する痛ましい事故が起きています。本市も4月から、そういった状況を受けまして、市民生活部が所管していた交通担当を都市整備部内に集約し、都市交通課として新たに設置しまして、教育委員会とともに通学路の安全の強化を図っているところでございます。通学路については、今回5年ぶりに埼玉県を主体とした通学路安全総点検が行われ、その点検結果を元にした安全対策を予定しています。それとともに本年4月から市内の全小学校区の通学路に見守り防犯カメラを全部で300台設置し、こどもの位置情報を検知する機能を待たせ、保護者に通</p>

	<p>知する環境も作らせていただき、こどもの見守り環境強化を行っております。また併せて、ALSOK とこの運用にかかる協定も結ばせていただいております。</p> <p>それでは、まず学務課から通学路安全に係る教育委員会の取り組みについて説明をお願いいたします。</p>
出席職員	<p>それでは、学務課からは通学路の安全につきまして、「交通指導員の配置」と「通学路安全総点検の実施」について説明させていただきます。</p> <p>まず、資料左側にあります「交通指導員の配置」でございます。目的として、戸田市の小・中学校に通学する児童・生徒の登校時及び下校時において、交通事故等のさまざまな災害を未然に防止し、生命を守り、安心して安全に通学できるよう指導監督することとなっております。現在の配置箇所は、60 箇所でございます。この、交通指導員には、研修受講が必須となっており、当初 20 時間の講習、以後 3 か月ごとに半日間の講習を受講し、指導監督にあたっていただいております。</p> <p>また、交通指導員の配置要望につきましては、各小学校から毎年報告を受けています。そのすべての箇所について教育委員会職員が現地調査を行い、その危険性を判断し配置しております。今年度は、戸田東小学校区内に新たに 1 箇所を配置いたしました。</p> <p>また、この交通指導員とは別に、一部の学校では、保護者や地域独自での見守り活動も並行して行われているところでございます。</p> <p>次に、現在の課題といたしましては、3 点ございます。</p> <p>1 点目としましては「交通指導員の担い手不足」が挙げられます。現在、業務委託で実施しているところではありますが、業者によると、基本的に午前と午後、1 時間ずつという特殊な勤務形態や、先にお話しした研修受講の大変さなどから、なかなか新たな人材が見つからないとのことです。</p> <p>課題の 2 点目として「委託費用の増大」が挙げられます。最低賃金の近年の上昇といった事情もあり、委託の費用も増加しているのが現状でございます。</p> <p>最後に「設置要望箇所の大幅な増加への対応」です。毎年、各学校から設置の要望調査を行っておりますが、今年度の調査では 9 つの小学校から要望が挙がっております。昨年からの要望も含めると計 17 箇所についての要望について挙がっている状況です。</p> <p>次に、資料の右側をご覧ください。通学路安全総点検の実施につ</p>

	<p>いて説明いたします。この通学路総点検は、通学児童等の安全確保を目的とし、5年ごとに実施されているものであります。実施の仕方につきましては、学校関係者や保護者の方に、「子供目線・歩行者目線」で通学路の点検をお願いし、実施いたしました。</p> <p>結果といたしましては、市内239箇所についての報告があり、このすべての箇所につきまして、埼玉県土整備事務所をはじめ、要望に関係する部署への報告を行いました。主な要望の内容としましては、歩道と車道との分離や、ガードレールの設置、児童の存在を認識しにくくする樹木等の剪定、また段差の解消等がございました。</p> <p>次に、課題について2点ございます。</p> <p>1点目といたしましては、この危険箇所の報告が、県全体で、前回と比較し1.78倍の、5,995箇所について対策が必要との判断が出たそうです。この件数となりますと、個々の案件を迅速に対応することは困難であると考えます。</p> <p>2点目といたしましては、千葉県八街市で発生した、飲酒運転による、下校中の児童の死亡事故などに象徴される事例への具体的な対策が課題となっております。</p> <p>資料の下段、「今後の取組」のところをご覧ください。</p> <p>交通指導員の配置についての課題に対しては、「シルバー人材センターとの連携の強化」により対応してまいります。すでに、戸田第二小学校や戸田東小学校などを中心に、シルバー人材センターの方々に児童の見守り活動を行っております。あくまでボランティアとしての活動となりますが、交通量が多い場所や道幅の狭いところなどで、黄色い横断旗を持って見守っていただくことで、子供の安全な通学に寄与しているものと考えております。</p> <p>次に、通学路安全総点検の実施における課題についての対応としましては、「関係各課との連携の強化」が重要と考えております。通学路安全総点検での要望について説明いたしましたが、その要望の多くは道路管理者や警察等が対応するものとなっております。道路等の状況となりますと、教育委員会だけでは対応しかねます。このことから、関係各課とのさらなる連携を強化することで、通学路の安全確保につとめてまいります。</p> <p>以上で、学務課からの説明を終わりにします。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に都市交通課から、通学路安全総点検結果等による令和4年度の取り組みについてご説明お願いいたします。</p>

出席職員

それでは、都市交通課から第5期埼玉県通学路整備計画の概要と、令和4年度の主な取組について御説明申し上げます。

学務課からご案内のとおり、今年度実施しました通学路安全総点検の結果、239箇所危険箇所が指摘されたことを受け、地域の通学路の整備を図るため、国、県、警察、川口市、戸田市、蕨市、電線管理者で構成された「さいたま地区通学路安全検討委員会」での検討結果を基に、第5期埼玉県通学路整備計画が策定されました。この計画の期間は令和4年度から令和8年度の5カ年ですが、本市では子供たちの安全を最優先に、2年間前倒しし、令和6年度までに完了させるよう計画いたしました。前倒しにあたり、令和4年の1年でできないかも検討いたしましたが、道路工事では車線規制などで渋滞が避けられず、本件は対象箇所が多いことから分割し、3カ年としております。また、今年度内に対策可能なものについても、前倒しで対策を行っております。

対策の内訳ですが、国県道や警察所管のものが61箇所、計画の対象外としたものが49箇所、市で対策するものが129箇所です。なお、対象外となったものの内容ですが、工事中で自転車が見えづらい、ですとか、防護柵に鍵が括り付けられている、などがございます。

主な対策内容でございますが、防護柵や鋼製ポールなどで物理的に車の進入を防止するほか、路肩のカラー化によりスクールゾーンであることを示すなど、視覚的に車の速度抑制を図ります。また、子供たちが横断する際に滞留できるスペースを確保する交差点整備も行っております。

続きまして、令和4年度の主な取り組みでございます。通学路整備計画における都市交通課所管部分では、交通安全施設設置工事を予定しております。主な内容としましては、美女木2丁目西交差点付近の道路の歩行空間が狭く、2車線で車の速度が出やすいことから、車線を1車線にして歩行空間を確保するとともに、車の速度抑制を図ります。また、笹目中学校の南側道路、戸田南小学校の東側道路の防護柵が老朽化していることから、こちらを更新します。

このほか、鋼製ポールの設置や薄くなった区画線の塗り直しなどを行っております。

これに加え、通学路安全総点検とは別に、これまで地元町会などから交通安全対策の強化をご相談いただきました、美女木小学校の周辺を、戸田市と蕨警察署で協議し、ゾーン30とすることを通学路整備計画に盛り込みました。ゾーン30は、生活道路での

	<p>歩行者等の安全な通行を確保するために区域内の最高速度を 30 キロメートルとするとともに、車道を狭めるなどの安全対策を組み合わせることで、自動車の速度抑制や、抜け道利用を抑える生活道路対策となります。</p> <p>以上で、通学路整備計画の概要と、令和 4 年度の主な取組の説明を終わりますが、子供たちの安全な通学のため、今後も学校などで新たに危険な箇所が判明したときは、計画に拘らず対応してまいります。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それではくらし安心課から、見守り防犯カメラの整備状況について説明をお願いします。</p>
出席職員	<p>それでは、くらし安心課で取り組んでおります、見守り防犯カメラについて説明させていただきます。</p> <p>お手元の「通学路の安全について【見守り防犯カメラ】」と題した資料をご覧ください。</p> <p>まず、現状ですが、戸田市では令和元年度から令和 2 年度にかけて、市内の各小学校、町会、PTA の方々をはじめ、地域の住民の方々の協力のもと、市内全小学校の通学路を中心に 300 台の見守り防犯カメラを整備し、令和 3 年 4 月から運用を開始しました。また、見守り防犯カメラの機能の一つでもある見守りサービスにつきましても、令和 3 年 4 月からサービスを提供しております。</p> <p>次に、見守り防犯カメラの効果としましては、見守り防犯カメラを市内全域の通学路に整備したことにより、防犯カメラの持つ犯罪抑止力とともに、見守りサービスによる保護者の安心につながっております。</p> <p>また、4 月の運用開始から 11 月末までの 7 か月間に警察から 70 件の画像提供依頼があり、98 台の防犯カメラ画像を提供し、事件捜査等に活用されております。</p> <p>依頼を受けたのは、蕨警察署をはじめ、近隣の警察署や警視庁からも依頼され、捜査協力しております。</p> <p>次に、今後の取組みとしまして、今後も継続して見守りサービス利用者の拡大を図り、より多くの保護者の安心につなげていきたいと考えております。また、見守り防犯カメラの持つ犯罪抑止力と防犯パトロールを効果的に組み合わせることにより、「人の目」と「機械の目」という見守り体制を強化し、不審者や犯罪者が近づかない街づくりを目指してまいります。</p>

	<p>最後に、資料右半分の部分、見守りサービスの概要について説明します。まず、500円玉ほどの大きさの見守り端末を携帯した児童が、通学等で見守り防犯カメラ付近を通過すると、見守り防犯カメラに内蔵された受信機が検知し、事業者にデータが送信されます。すると、見守りサービスを利用している保護者等のスマートフォン等にアプリを経由し、お子さまの通過時間と検知場所が通知されるというサービスです。これによって、自分のこどもが今どのあたりを通過しているのか、家に向かっているのかを保護者が把握できるようになっています。また、この児童の通過データは、事業者で保管されており、行方不明などの有事の際、捜査機関からの照会に対して位置情報を提供いたします。</p> <p>説明は以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまご説明ありましたけれども、委員のみなさまからのご意見を頂戴したいと思います。</p>
委員	<p>通学路の安全について、いろいろな意味で対策を練っていらっしゃる事が分かりましたが、正直に言って知らないところも結構ありました。一市民ですが、市民として知らないこともあるのだなということが教育委員をやっていながらありました。特にすごいなと思ったのが、見守り防犯カメラです。質問がありますが、契約者に見守り端末を配布するということですが、それは保護者の方が希望すれば誰でもそのサービスを受けられるということですか。</p>
出席職員	はい、そうです。
委員	親御さんがいないと言うことも可能ですか。
出席職員	可能です。
委員	それはコストがかかるのですか。
出席職員	保護者の負担です。月500円です。年払いにすると月440円です。
委員	<p>そうですか。大変すばらしいことだなと思います。もちろん人権やプライバシーの問題等が関わってくることは承知したうえで、希望する親御さんがこどもの動線を見られるということは、いざというときにすごく役に立つと、素晴らしいなと思います。市民の立場からすると、お年寄りにも適用できないものかなと思います。あとは、もっと広報していくといいと思います。やっているのかもかもしれませんが今日初めて聞いたので。</p> <p>素晴らしい取り組みをやっていただいているということで、これ</p>

	からも続けていただきたいなと思いました。以上です。
委員	<p>交通指導員の配置についてですが、指導員以外にも、小学校の近くによく地域の方が立って子どもを誘導している姿を見かけます。そういうご協力は本当にありがたいことだなと思っていて、そういう形で学校に行くまでの道々、いろんな方たちが関わっていただくことが可能ではないかと思います。私が PTA 会長をやっていたときにも、ちょうど京都の方で通学児童の列に車が入ってという事故があったときだったので、校長からの依頼で1年間、一人1回、1日という形で設定してやったところ、思った以上にみなさまのご協力をいただきました。わが子が通う学校のことなので、保護者の方たちも大変な中でも、そういったご協力は結構いただけるのではないかなと思い、そういった形で、通学路に関しての安全はきっとどんどん確保されていくのではないかと考えています。</p> <p>最後の見守りサービスの件ですが、今現在小学生が対象ですが、中学生も意外と部活動の帰りが遅く、今の時期とか特に暗くなるので、保護者の方から不安の声が私の子どもが通っていた時にありました。部活動の先生が代表の保護者に「今終わりました」と連絡をして、そのお母さんがみんなに連絡をくれていました。部活がいつ終わったかわからない、いつ帰ってくるかわからないという中で保護者の不安を解消するためにそういった策を取っていただきました。それもあくまで一つの手ですが、やはり中学生ならではの不安な部分もあるので、小学生だけに限らず中学生の方もそういった対策を考えていただけると、もしかしたら需要はあるのかもしれないと思いました。以上です。</p>
委員	<p>最初のページのガードレールの件ですが、市内を歩いていても大型のガードレールはほとんど見ないように感じます。見ていますと、交差点で児童が待っているときがあるので、交差点とかはリスクが高いと思います。手を打っていただいているところだと思うのですが、交差点には大型のガードレールをつけていただけるといいかと思っています。</p> <p>あと、防犯カメラの方は大量につけていただいて安心感があります。地図を見ると結構ついています、今後増やしていくのでしょうか。</p>
出席職員	<p>令和2年度までに大規模な整備をしたもので、直近で整備をする予定はないのですが、戸田市には町会で維持していただいている防犯カメラもありますので、その辺の調査もさせていただいて、また</p>

	カメラ整備の検討をさせていただきます。
委員	防犯パトロールとかスピーカーをつけて注意していただいて、よいかと思うのですが、何時から何時までと決まっているものなのでしょうか。
出席職員	委託警備員のパトロールですが、自転車の方で回っているものは、13時から22時まで。青い回転灯をつけている車両で回っているものは13時から明け方5時までです。
委員	こどもが歩いたり、鉄道のガード下など暗いところもあるものですから、遅い時間、朝までパトロールしていただいていると安心です。心配な部分ですので、今後も続けていただければと思います。よろしくお願いします。以上です。
委員	<p>学校にいて、難しいだろうと思った点がいくつかあります。こどもの命を守るためには歩行者と車両が分離しているのが一番良いですが、それは難しいのではないかという道路交通環境の整備の問題。自動車の速度を減速させるゾーン等の問題。そして、関係機関の連携とか協力の問題。学校やPTAが中心となって地域に発信していかなくてはいけないと思います。この3つが大きな特徴かなと思います。自分から危ないなと思ったら避けるなど、こども達への交通安全教育の徹底という部分は学校関係が実践的に指導はしていると思います。地域住民や道路の利用者が協力してくれるのであれば、推進体制や組織はどういう仕組みになるのか、基本的な方針がどうなっているのか、対策箇所とか一覧表の作成ができていのであれば、ホームページや広報誌等で載せていくといいと思います。</p> <p>文部科学省や国土交通省や警察庁から、平成25年頃に、道路安全プログラムを作りなさいという通知文がありました。戸田市に既にあるのかどうかホームページを見たのですが、まだないようです。今こういう風に一生懸命やられている取り組みを、地域住民の人に何とかここまでやっています、ここまで終わりましたと伝えることで、親としても安心するし、地域住民としても安心すると思います。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。それでは、私からも一言お話をさせていただきます。</p> <p>広報の部分ですが、事故が起こると全国的な関心事になり、うちは大丈夫かとなり、その時にあまりよくわからないと、戸田市やっていないじゃないかと思われてしまうのは、確かにあります。せつ</p>

	<p>かく一生懸命やっているの、PRをしっかりとっていったほうがいいのかなと思います。それこそ、「こどもの通学路の安全」というような形で、カメラの設置場所や、仕組みだとかいろんなものを今あるデータだけでも公表する。各学校の中で色々やっている、交通安全教育のリンクをわかりやすく貼ってもいいですし。そういうことをすれば、見た人が安心するかなと思います。</p> <p>ガードパイプを笹目中の前に取り付けるなど、具体的に色々やっていますから、そういったところも見える化して、進捗状況がわかると非常にいいと思います。ぜひ、いただいたご意見は受け止めさせていただいて、何らかの形で進めていければと思います。</p> <p>また、カメラの仕組みについてですが、県内初として、防犯カメラ設置条例を制定しました。個人情報の保護を徹底して、カメラは全部マスキングし、家の前についても、家の中は見えないようにしています。また、個人情報は撮らないなど、その前を通った人などもちゃんと守られるようになっていて、戸田市の誇れる部分であると思っています。</p> <p>あとは、交通指導員の部分です。実は私も何年もこの話をしていますが、一人つけるだけでも委託料がかかり、際限がなくなります。ですので、これを地域の力で見守り、交差点を安全にしていこうとすることができないのかなということで検討しているのですが、なかなか警備の法律の関係で難しいということもあります。様々な手法を組み合わせて、予算も肥大化しないような形でやっていくのが本来はいいと思っています。これは、研究課題とさせていただければと思っています。</p> <p>ということで、次の課題にいきたいと思います。不登校の対応についてです。令和2年度の文科省の調査では、全国の小中学校の不登校生徒数が8年連続増加し、戸田市においても不登校に至る児童生徒は増加傾向にあります。また、不登校の対応は、教育大綱の重点目標の一つでもあり、誰もが教育を受ける権利を守るために対応を強化すべき分野であると考えております。それでは、教育政策室から不登校への対策について説明をしていただければと思います。よろしく申し上げます。</p>
出席職員	<p>それでは不登校の対策について説明させていただきます。</p> <p>まず資料の1ページでございますが、平成29年度から令和2年度の推移を表したものでございます。下段のグラフを見ていただくと、小学校、中学校、小中学校の合計のグラフになっております。</p>

青が国、オレンジが埼玉県、グレーが戸田市の状況でございます、発生率を表したものでございます。いずれのグラフも右肩上がりという状況ですが、戸田市の状況としては、国よりは低い、県よりは高い状況でございます。特に小学校は令和元年度から令和2年度の発生率が、中学校に比べても大きく上がっていることが一つの課題ととらえています。それではページをめくっていただきまして、本市の不登校児童生徒等支援策「戸田市教育相談充実構想」でございます。これまで多様な専門職がチームとなって、不登校だけではないですけれども、様々な教育相談の体制を整えてきました。例えば小学校スクールカウンセラーは、全12校に週2回配置をして、児童や保護者の相談に対応し、中学校スクールカウンセラーでも同様の対応をしております。戸田市立教育センターでも教育相談コーディネーターや心理専門員、様々な専門職が相談にあたっております。その他、なかなか対面では相談しづらい、匿名でないちょっと話しづらいといった場合でも、相談を受けられるように、17時から21時まで、SNS教育相談として、LINE、Facebook、Twitterと様々なツールを活用してSOSを吸い上げられるような体制を整備しております。

さらに不登校の子ども達の学びの場所として、教育支援センターステップを開設しております。平日9時半から16時まで、子ども達が自由に通えるような形になっております。こういった各種施策を活用しながら、さらなる充実に向けて、指導と不登校を科学するという取り組みを今後進めていきます。次のページですけれども、教育支援センターステップの概要になります。昨年度から民間事業者との連携によって、不登校児童生徒や保護者への支援の充実を図っております。現在、小中学生合わせてほしい30名程度の受け皿・居場所となっております。特色の1点目ですけれども、戸田市の不登校対策の拠点として、不登校支援の専門的知見を活用した教室運営を行っております。民間事業者がフリースクールやサポート校を運営しているような企業でございますので、その知見を存分に生かしていただいております。特色の2点目ですけれども、一人一人に応じた支援プログラムということで、一人一人の意欲関心に基づいてプログラムを組んでおります。通常の教科だけではなくて、農業、体育、豊かな情操と社会性を育むための体験活動を行っております。また、先端の学びに触れてほしいということで、プログラミングやSTEAM教育も実施しております。特色の3点目として、不登校児童生徒の保護者支援という形で、保護者とともに不登校について

	<p>考える集いの開催や、保護者の希望に合わせた専門家との教育相談の実施をしております。4点目、アウトリーチ型支援の実践というものがございます。成果に結びつけるまでに課題はございますが、ただ、誰一人取り残さない学びの実現に向けて、アウトリーチについても充実していきたいと考えております。</p> <p>最後のページですけれども、今後の不登校児童生徒への支援として取り組んでいきたいものをまとめたものです。子ども達が毎日いるんな形でSOSを出していると思いますので、そういった小さなサインを科学の視点で見つけ出していきたいと考えております。現在も、先生方、保護者の皆さんが子ども達のことを見守っていますが、どうしても見つけ出せない部分がございます。そういったところを科学の視点を入れながら、サポートしていきたいと考えております。また、未然の防止、早期発見・早期対応、適切な支援のための選択肢ということで、子ども達がいろいろな選択肢の中から自分に合った学びの場所というものを選んでいけるような、受け皿を作っていきたいと思っております。1点目です。校内の居場所の確保。今は中学校には相談室という、なかなか教室に入りづらいお子さんの居場所がありますが、小学校ではそういった教室がないような状況ですので、そういった部分で何か確保はできないのかということです。2点目は、不登校を科学するというところで、専門家の知見を活かしながら、また、戸田市教育政策シンクタンクとの連携を図りながら、この小さなサインがこういった形で表れてくるのかといったところの調査・研究を進めていきたいと思っております。3点目ですが、社会に開かれたネットワークということで、不登校の対応というのは学校だけでは限界がございます。やはり地域や保護者の理解、協力などを得るため、シンポジウムの開催や、地域住民や学校応援団との連携を図っていききたいと思っております。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。それでは、委員のみなさまからのご意見を頂戴したいと思います。</p>
委員	<p>不登校というのは社会全体の大きな問題となっておりますが、不登校がなぜ起きるのかということを経験するということですね。アンケート又はデータに基づいて、なぜ不登校になってしまうのか知り、分析をした上で、どのように対応したらいいか、いわば、体系的にプランを練っていらっしゃるのでいい視点だと思いました。また、これからも進めていただく価値のあるものであると思っております。特にその中で一つだけ思うのは、不登校の子はもし学校に行</p>

	<p>けなくなってしまったならば、教育センター等で場を設け、復帰できるような、別の流れの中で勉強ができるような場を作ってあげるといこと、つまり代替の場をきちんと提供できるということがすごく大事ではないかと思ひます。</p> <p>不登校の子はゆっくりゆっくり自分に合った形でバイパスを走っているのだというように理解しています。やはり、そういう子はそういう子なりに支援をし、場を設けてあげられれば、やがては楽しい仲間との話し合いができたたり、あるいはつながりができたたりするようになるのではないかと思ひます。支援するほうも気長に、人生長いのだから何年間か学校行かなくても大したことはないですよ。長い目で見ればいくらでも学びなおしができますから、あまり急かして学校学校学校っていうのもいかがなものかと少し思ひました。ただ、学校は楽しいと思わせる、学びって楽しい、発見って楽しいと思わせるような道を作ってあげる。個別最適化という時代でありますから、早くいく子も、ゆっくりいく子も個別の考え方だと思ひますので、それぞれに合った形で、プランや生徒の支援プログラムを戸田市として考えていくことは素晴らしいことだと思ひますので、ぜひ進めていただきたいと思ひております。</p>
<p>委員</p>	<p>まず最初にお聞きしたいのは、ピアサポーターということで大学生ボランティアが入っていますが、その大学生ボランティアはこどもが何か相談したいと思ひた時に、いつでも相談できるような形で入っていらっしゃる方達ですか。</p>
<p>出席職員</p>	<p>大学生ピアサポーターというのは、大学の授業の関係もあり、常時配置というわけではなく、この日に来ると決まっているので、その日にめがけてくる子もいると思ひますし、相談したかったけど今日はいなかったということもあると思ひます。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当に専門の方々のシステムがすごく充実しているのがほんとに戸田市の素晴らしいと思ひているところで、専門家の見方はきつと何か違う部分があると思ひるので、うまく導いてくれるといいと思ひます。保護者の方たちから以前から聞いていたのは、こどもが学校に行きたくないと言ひ出した時に、保護者としては当然行ってもらいたいから、何とか出そうとするけれど、ほんとにいいよダメだという見極めの部分、もういいよ無理して行かなくてもいいよという境目がやはりすごく難しいと聞いていました。そういったところを専門家の方たちがこれだけ揃っていて、相談できる体制がある</p>

	<p>ということが素晴らしいことだと思います。また、こども本人にとって、専門家に相談をした時点で自分が何か病んだ人間だと感じて、さらに行けなくなるという事態があります。そういったときには、年の近い大学生ボランティアが話を聞いてくださることに期待をしたいところでもあります。このシステムはこのまま続けていただけたらと思います。今は特にコロナの不安も増えてきていることも原因ではないかなと思いますが、それでも気持ちとしては、学校でこどもたち同士が集まってという形にしてほしいって言う思いもすごくあります。このようなサポートの中で不登校の児童生徒が少しでも減っていくことを願っています。以上です。</p>
委員	<p>素晴らしい形で支援をしてくださっていると思います。本人の家庭環境や置かれている状況を少しでも知りたいので、情報収集が必要かと思いますが、そのために保健の担当の部署、福祉の担当の部署が連携して情報交換されていくという形はいかがでしょうか。</p>
出席職員	<p>おっしゃっていただいた通り、家庭に課題のあるお子さんについては、こども健やか部とも相談、情報共有をしたり、あとは健康福祉部とも連携したりしながら、チームとして支援していくことができるようにしています。</p>
委員	<p>ありがとうございます。よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>戸田市は手厚い状況になっていると思いました。一般的に、原因は学校か家庭か本人の問題かということになるんですが、学校が原因としたものは、不登校にさせないぞということで、とにかく友達関係とか教師の関係とか、勉強の遅れがないようにとか、常に先生方と共有しながらやっていました。それでも家庭的な面はどうしても親との関係で、なかなか難しい点があります。親も含めたそういう相談業務が必要だと常々思っていました。もし学校の管理職であれば、市のこういった充実した部分で、経済面も含めて、家庭的な相談ができる専門家に見立ててもらって、支援計画ができて対応していただければと思います。</p> <p>ただ、戻るとなるとまた別の話で、やはり学校がその子を受け入れるという準備や環境整備をしていかないとまた不登校になってしまう。そういったことを含めて、完全復帰が望めないにしても、学校は楽しかったとか、友達と遊べたとかそういうことを少しでもさせてあげられればと大きくとらえています。</p> <p>最近無気力による不登校が増えています。何にも生きがいを持っていないとか、自分は何のために生まれてきたのかよくわからない</p>

	<p>というような。そういう子どもの方が、逆にどうしてあげたほうがいいのかが大変難しいのではないかと思います。ただ、不登校を科学するという部分で、完全解決ができないにしても、その子の支援や家庭を大事にしていくような対策がいるかと思っています。</p>
市長	<p>手厚いサポートとっていただいております。不登校が悪いものと考えれば、防止策の話になりますが、今はそうではなく、不登校だって教育のちゃんとした学びの環境を整えてあげれば、それはそれで一つの教育なんだという考えも出てきています。その指標や、何が子どもにとって一番いいのかは、どういう風に考えればいいのでしょうか。文科省の関係で今新しい考え方とかそういうものって何かありますか。</p>
出席職員	<p>さっきもおっしゃっていたように、学校に原因があつていかないという子をなくしていく、また、学校に行きたいけれど行けないという子ども達に対しては、そうならないように手立てを取っていく必要があります。戸田市ではPBLがそれに通じることになると考えておりますが、学ぶことは楽しい、自分で解決していける、自分には力があるというような自信をつけてあげることが重要ではないかと思っています。今は直接不登校に関わるものをまとめさせていただきましても、そうではなくて、学校の中での学び方、学びの在り方も含めて、学校をもっともっと魅力的にしていくこと、子ども達が選択していくことができるようになることも大切かと思っています。学校がいい、という子はそうでしょうし、そうでない場所が自分には合っているという子はそれを選択していくことができるように支援することが一つの在り方なのではないかと考えております。この発生率の中には、学校に行きたくてもいけないという子も含まれていると思いますので、その数字を下げていくことは必要なことかと思っています。</p>
市長	<p>積極的な不登校の子もいるんですね。YouTuberになりたいとかで必要ないからと、学校で学ぶことはないという人もいますよね。学校に行きたいけど行けないのか、学校は必要ないと思っているのか、それは聞けないものでしょうか。</p>
出席職員	<p>学校の方から不登校の要因について回答していただいている調査もあります。そこでは、友人関係とか学習の部分とかが原因で不登校になる子供達の割合は把握できております。</p>
市長	<p>不登校の課題は難しいが、一つ一つ丁寧にやっていくことが大切だと思いますから、また引き続きよろしく願いいたします。</p>

	<p>では議題3、新たな防災教育の取り組みについてです。</p> <p>地震や台風等の災害発生時に児童生徒が自分の身を守る行動をとることや、中学生が地域防災の担い手として期待されることから、学校での防災教育が大きな役割を果たしていると考えています。特に戸田市は水害が大きなリスクでありまして、戸田市の実情に合った実践的な教育というのが、市民の命を守る意味でも必要不可欠なことと考えています。そういった中で、新たな防災教育について、教育政策室から説明をお願いいたします。</p>
出席職員	<p>新たな防災教育について説明させていただきます。本市ではPBL、Project Based Learningを進めています。実社会のリアルな課題解決に取り組むことを通して、これからの時代に必要な知識および課題解決力などの「未来を切り拓く力」を育成する実践探求型の学びです。これまで、防災教育というと、地震が来たら怖いからやるんだよとか、脅しの防災教育でした。また、知識をインプットするだけの防災教育が主流でした。しかし、それだけではなく、想定外のことが起こっても対応できる姿勢や感覚を磨く、「探求的防災教育」や「STEAMにつながる防災教育」への広い学びにつながっていく質的転換を考えております。</p> <p>今年度行いました、新曽中学校の事例を紹介させていただきます。全体で6コマの授業として実施したものです。事前学習として2コマ「台風シミュレーション～このときあなたはどう動く?」として、台風が発生したというシミュレーションを通して自分がどうやって対応をするのかということを検討しました。生徒たちは知識がない状態で失敗しがちでしたが、危機管理防災課からフィードバックしていただくことで、どうすればよかったのか学ぶことができました。それから事前学習「避難所について考える」ですが、避難所とはどんなものなのか、どんなスペースが必要なのか学ぶものです。当日活動は3つあり、「マイ・タイムライン、マイ・非常バックを考えよう」として、実際に災害が起きた時には何をもっていけばいいのか、どう動けばいいのか書き出したり、「学校のある防災設備を体験しよう」ということで、テント設営を体験したりしました。「皆が快適に過ごせる避難所レイアウトを作成しよう」と、実際の避難所にはどういったスペースが必要なのか、どういう形にすれば皆さんが快適に過ごせるのかレイアウトを作成しました。最後に事後学習として、「本日の振り返り」を行いました。こども達からは、「改めて自然災害の恐ろしさや、緊急時に備えて日頃から準備し</p>

	<p>ておくことの大切さが分かりました。大人になったらできることを積極的にしていきたいです。」という感想ですとか、「災害が起きた際には、あらゆる状況を想定して準備・対策をすることが大事だと分かりました。今回得た知識を最大限活用して、自分の命や周りの人を守ってきたいです。」と社会の一員として、自分ができることを考えたり、状況に応じて最適解を模索したりする姿勢に繋がったと考えております。今回の新曽中学校の事例ですけども、危機管理防災課、学校運営議会、町会長、PTA、防災教育アドバイザー河合琢也様にご支援いただいで実現することができました。新曽中学校だけではなく、笹目小学校や新曽小学校でも防災教育を実践させていただきました。プールの中を実際に歩いてみると、浸水したときにどれだけ歩きづらいのかとか、防災を考える意味、大切なこととは何かというような、防災教育アドバイザーに助言や講義をいただきながら、令和の防災教育を進めています。以上報告とさせていただきます。</p>
市長	<p>ありがとうございます。では、各委員さんからお願いします。</p>
委員	<p>防災教育は学校のみならず社会全体で取り組むべき問題であります。</p> <p>知識としては市からいただいている防災マップとかいろいろとあるのですが、いざ直面したとき、戸惑わないようにどう動けばいいのかということ、これからは意識してやっていく必要があると思いました。実践的な防災という形で、すぐに全市でやるのは難しいかもしれませんが、少しずつでも進めていくことが喫緊の課題だと思います。そういった意味でスキルリーダーがうまく育成されていくといいのかなと思います。いざというときに頼れる人を育成して行ってほしいと思いました。</p>
委員	<p>今までの避難訓練は、学校からまず校庭に逃げて、保護者が迎えに行ってしまうという形でしたが、そこから、小学校と中学校が連携したり、地域の方たちが入ったり、少しずつ実際に動けるようなやり方になってきていることはすごく感じています。大人を防災訓練のために集めるのはなかなか難しいと思うのですが、学校の中でこども達がこういう形で学ぶということは、災害が起きたときに、もしかしたらこども達が大人たちもまとめて自分たちの学んだことを活かして、避難所のことをきちんとやってくれるのかなと少し期待をします。前にもお話ししたと思いますが、台風 19 号の時に避難所である学校は人が多くなり、4 階が埋まってしまい 3 階に移動と</p>

	<p>なりました。もっと大きな台風になった場合、もっと人がごった返すことになると思うので、もしかしたら自分たちの学んだ知恵でまとめていてくれるのはこういう子たちなのかなと思って期待をしています。またこういう活動ができるようになるといいと思います。</p>
委員	<p>災害が起こったときには、現場での旗振り役が大事だと思います。実際、自分が手を挙げていいのか悪いのか迷っている間にどんどん状況が悪くなってしまうので、避難所運営委員会を立ち上げ、連携し、緊密に知識を共有しながらやっていただければと思います。</p>
委員	<p>防災教育について、いい報告をいただいたと思います。違う観点として、自助共助の観点で、中学生は助けられる人から助ける人へと意識づけすべきだと思うので、普段から自分の住んでいる地域を把握できるような学習などが必要だと思います。また、実際に備蓄品を見たことがない中学生には、学校で紹介しないといけないのではないのでしょうか。自分の学校の体育館が避難所になることにピンと来ていない子もいるので、自分の命を守るだけでなく、自分が人の命を守ることができるんだということも深めていただければと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。防災教育は学習指導要領などと繋がっていますか。</p>
出席職員	<p>いろいろな教科の中にまたがって入っており、その中で防災意識を高めていく形です。</p>
市長	<p>やはり取り組もうと思った時に、そういうきっかけがあるといいと思います。明日地震が来る、水害が来るとはみんな思わないので、どうしても後回しにしてしまう。目の前の受験とかテストに意識がいつってしまうのではないかと思い、きっかけがあればいいのではと思いました。</p> <p>また、生徒会などの中に防災委員会のようなものはありますか？</p>
出席職員	<p>ございません。</p>
市長	<p>この実践探求型はすごくいいと思うので、ぜひ広げていただけたらと思うのですが、防災の話は健康に似ていると思います。みんな健康になりたいと思ってはいるけれど、健康の意識を高めようとシンポジウムなどをすると、健康マニアの人など、既にやっている人たちが集まるんです。防災も同じで、防災のシンポジウムをすると防災に関心がある人が集まってくれるんですね。しかし、災害が</p>

	<p>来て、被害に遭う人は防災に関心がない人で、健康も同じで健康被害に遭う人は、健康に関心がない人なんです。今、戸田市ではスマートウェルネスを進めていて、12月中に1日5000歩歩いた人は、クオカード500円を市民であれば誰でも差上げますというのをやっています。それがあると、コバトンの健康マイレージにたった1000人しか登録者がいなかったのが、8000人になったんです。埼玉県で一番です。防災についても何かのきっかけで意識が変わるのであれば、そういう仕掛けというのも大事ではないかと思えます。教育には馴染まないかもしれませんが、そんなことを感じた次第です。</p> <p>戸田市は水害のリスクが高いし、地震も最近増えていますので、例えば中学校防災士などのリーダーみたいなものを作っていたくなど、検討していただければと思います。危機管理防災課とも連携して進めていただければなと思っています。</p> <p>議題の4その他について何かありますか。</p> <p>特にないようですので、最後に教育長からお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>全体的な話ですが、1番の通学路と、3番の防災教育については知識伝達型から体験型という話があったのですが、今までの防災教育は「きょう」の字が脅しの「脅」の防災脅育でした。こんなにおっかないものだというのが今までの防災教育でした。そこは、まさに体験型教育や、中学生が関われるような形にするなど転換が必要かと思えます。インプットの改善、PBL型のアウトプットの改善に努めていかなくてはいけないだろうと思えます。これから学習指導要領の中で、意図的・計画的に進めていかなければいけない課題だと思えます。</p> <p>2番目の不登校については、まず、そもそも不登校の比較は全く意味がないもので、どういう理由でということにピンポイントでフォーカスして支援していくことをやっていかないと、いつまで経っても子ども達が救われない。単なる保護者や教員の気づきだけに頼っていたものから、先回りをしてデータに基づいた支援をしていかないと適切な支援というのはできない。先に先にと支援をしないと、後からでは、子どもの心を立て直すというのは難しいわけですから。しかもそれは教育委員会だけではなくて、他部局との連携というのは大事な部分で、それを総合的に総括的に組織的に進めていかないといけないのではないかと思います。今までは対処療法ばかりで攻めの療法ができていなかった。全国的にそういっ</p>

	た組織を作っていないと、とても横断的な対応はできないんじゃないか。戸田市としてはフロントランナーとしての教育をやりたいなと思っております。引き続きよろしく願いいたします。
市長	ありがとうございます。
事務局	本日はありがとうございました。以上を持ちまして、総合教育会議を終了させていただきます。

この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人は次に署名する。

令和4年4月4日

菅原文仁

戸ヶ崎 勤

仙波 憲一

土肥 美奈子

木村 雅文

長道 修
